

# 結果の概要

## 【第13回調査（平成13年出生児）】

### 1 母の就業状況の変化

#### 母が有職の割合は年々増加し、第13回調査（中学1年生）では76.4%となっている

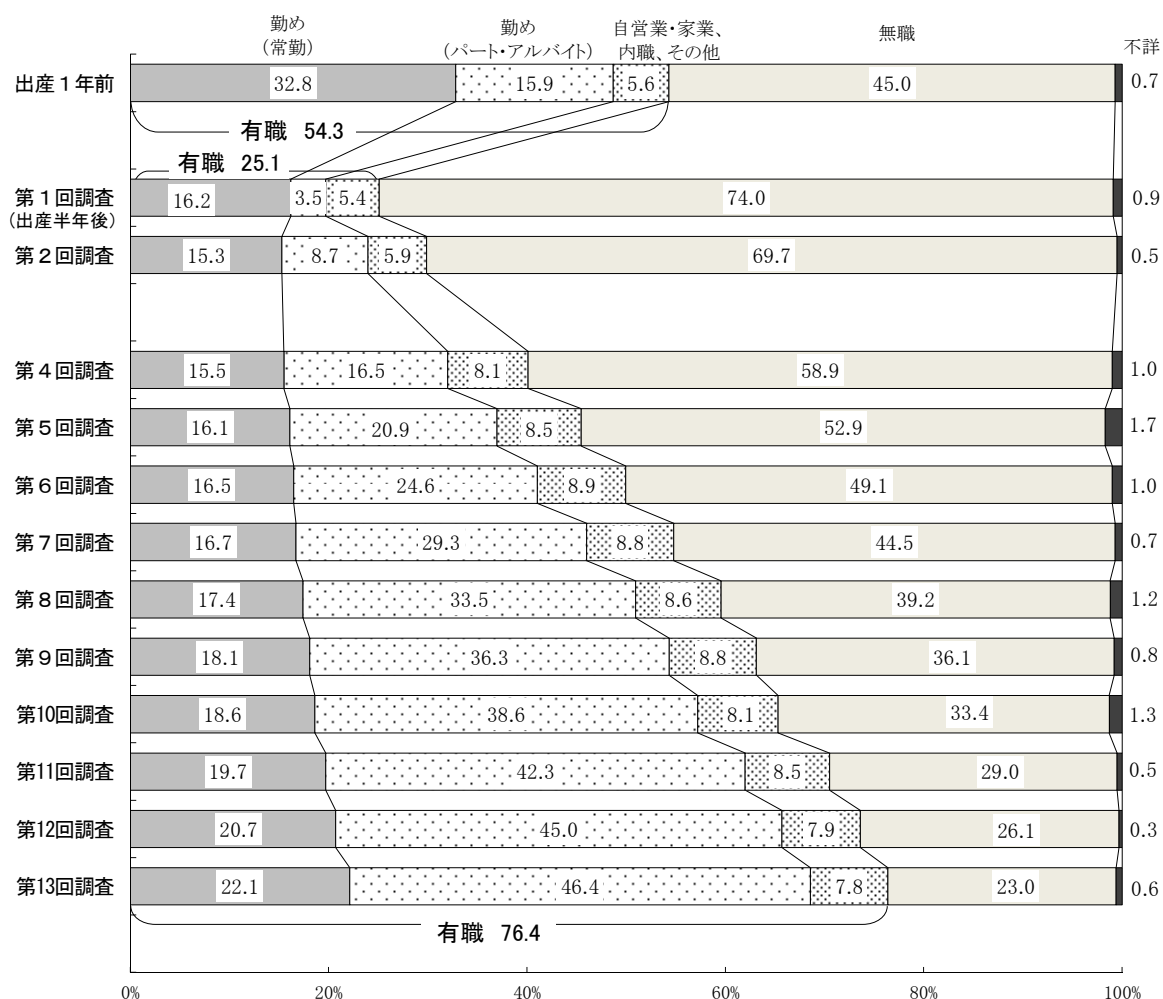
母が有職の割合は、出産1年前の54.3%が、第1回調査（出産半年後）で25.1%に減少したが、その後は年々増加し、第13回調査（中学1年生）では76.4%となっている。

母の就業状況の変化をみると、「勤め（パート・アルバイト）」の割合は、第1回調査（出産半年後）の3.5%から年々増加し、第13回調査では46.4%となっており、「勤め（常勤）」の割合は、第4回調査（15.5%）から徐々に増加し、第13回調査では22.1%となっている。（図1）

また、第12回調査（小学6年生）と第13回調査（中学1年生）との変化をみると、第12回調査で「無職」であった母のうち、24.7%が「有職」となり、その内訳では「勤め（パート・アルバイト）」が最も多くなっている（表1）。

第13回調査の母の就業状況をきょうだい構成別にみると、「有職」の割合は「弟妹のみ」（74.2%）と「兄姉のみ」（79.9%）では、「兄姉のみ」の方が5.7ポイント高くなっている（表2）。

図1 母の就業状況の変化



注：1) 第1回調査から第13回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 25,461）を集計。

2) 第3回調査は母の就業状況を調査していない。

表1 第12回調査の母の就業状況別にみた第13回調査の母の就業状況

(単位:%)

第13回調査 (中学1年生)	第12回調査 (小学6年生)	総数 <sup>2)</sup>	無職	(再掲)		有職	勤め (常勤)	勤め (パート・ アルバイト)	自営業・ 家業	内職	その他	
				仕事を 探して いる	仕事を 探して いない							
総数 <sup>2)</sup>		(100.0)	100.0	23.0	6.6	15.5	76.4	22.1	46.4	6.2	1.1	0.5
無職		(26.1)	100.0	74.8	18.1	54.0	24.7	1.7	19.5	2.2	1.0	0.3
(再掲)	仕事を探している	(6.6)	100.0	53.0	35.7	16.0	46.4	4.1	39.4	1.0	1.4	0.5
	仕事を探していない	(18.6)	100.0	82.7	12.1	68.1	16.8	0.6	12.4	2.6	1.0	0.2
有職		(73.5)	100.0	4.6	2.5	1.8	94.7	29.3	56.0	7.6	1.2	0.6
勤め(常勤)		(20.7)	100.0	2.1	1.3	0.6	97.2	91.6	4.4	0.8	0.0	0.4
勤め(パート・アルバイト)		(45.0)	100.0	5.2	3.1	1.9	94.2	5.3	87.5	0.8	0.2	0.4
自営業・家業		(6.1)	100.0	5.8	1.4	3.8	93.0	2.9	8.2	80.7	0.4	0.8
内職		(1.3)	100.0	15.0	5.1	9.0	84.1	-	26.1	0.6	57.4	-
その他		(0.4)	100.0	16.8	8.8	8.0	82.3	9.7	27.4	10.6	2.7	31.9

注: 1)第1回調査から第13回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者(総数 25,461)を集計。

2)総数には、就業状況「不詳」を含む。

3)   は、就業状況に変化のないものである。

表2 きょうだい構成別にみた母の就業状況【第13回調査】

(単位:%)

母の就業状況	きょうだい構成 <sup>2)</sup>	総数 <sup>3)</sup>	無職	有職	勤め (常勤)	勤め (パート・ アルバイト)	自営業・ 家業	内職	その他
ひとり(対象児本人のみ)	(14.2)	100.0	25.1	73.9	25.3	40.9	6.3	0.9	0.5
弟妹のみ	(36.8)	100.0	25.3	74.2	21.1	45.7	5.6	1.3	0.6
兄姉のみ	(37.7)	100.0	19.2	79.9	23.5	48.9	6.2	0.8	0.5
兄弟姉妹あり	(11.3)	100.0	22.6	76.6	21.4	44.9	8.6	1.3	0.4

注: 1)第13回調査の回答を得た者のうち、「母と同居」の者(総数 29,793)を集計。

2)きょうだい構成は、調査対象児と同居している兄弟姉妹の構成をいう。

3)総数には、母の就業状況「不詳」を含む。

## 2 子どもの就寝時間と朝食

**平日の就寝時間は、年齢が高くなるにつれて遅くなっており、就寝時間が遅いほど、朝食を食べる割合は減っている**

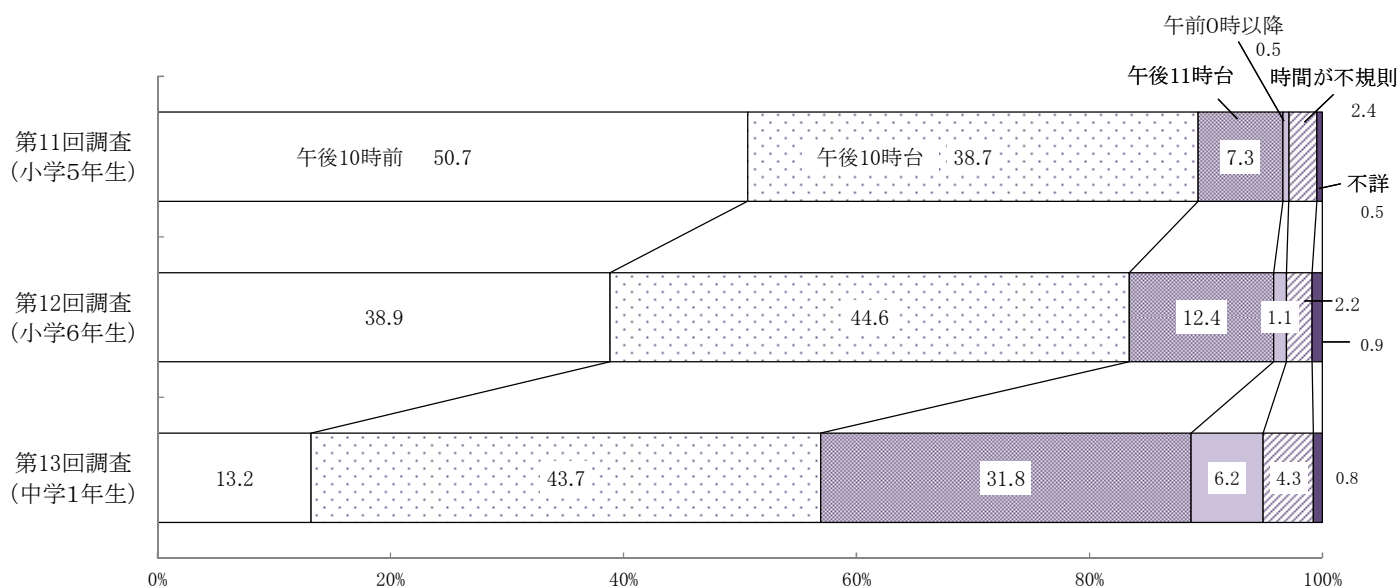
子どもの平日の就寝時間について、第11回調査（小学5年生）、第12回調査（小学6年生）、第13回調査（中学1年生）の割合の変化をみると、「午後10時前」では、第11回調査（50.7%）、第12回調査（38.9%）、第13回調査（13.2%）と年々減少している一方、「午後11時台」では、第11回調査（7.3%）、第12回調査（12.4%）、第13回調査（31.8%）と年々増加している（図2）。

平日の就寝時間別に朝食の有無の状況を見ると、「総数」では、朝食を「食べる」が92.0%、「食べないことがある」が5.9%、「食べない」が1.4%で、9割以上の子どもが朝食を食べているものの、就寝時間が「午前0時以降」では「食べる」は9割に満たず、「時間が不規則」では8割に満たない。就寝時間が遅いほど、朝食を「食べる」割合は減っている。（図3）

朝食を食べる子どもの朝食の主食、主菜、副菜のバランスをみると、「いつもバランスよく食べている」は36.4%、「ときどきバランスよく食べている」は45.3%、「バランスよく食べることはほとんどない・まったくない」は18.0%となっている（図4）。

また、朝食を食べない子どもの食べない理由をみると、「朝は食欲がない」（46.8%）が最も多く、次いで「食べる時間がない」（35.2%）となっている（図5）。

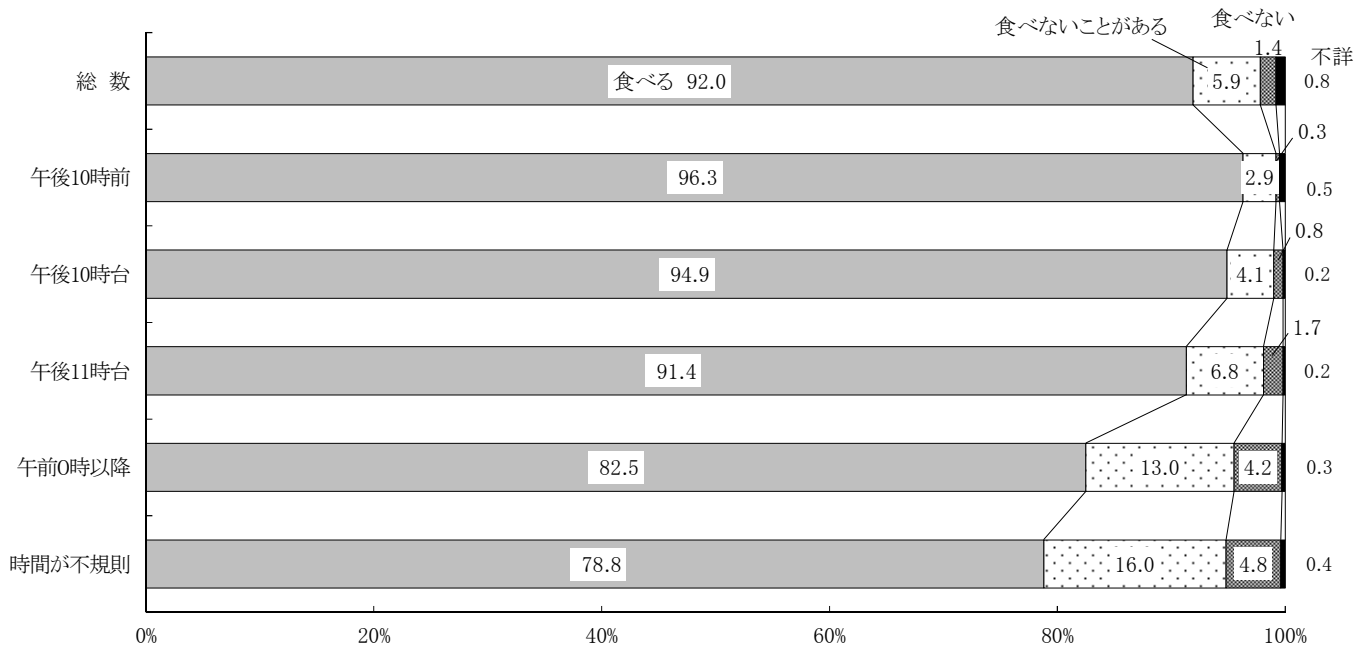
図2 子どもの平日の就寝時間の変化



注: 1) 第11回調査から第13回調査まで回答を得た者(総数 28,732)を集計。

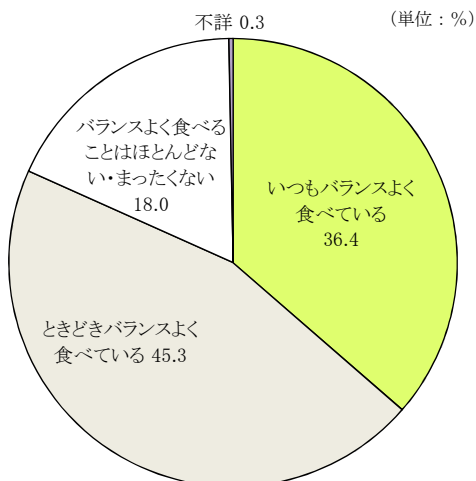
2) 第11回調査と第12回調査は、「登校日」の就寝時間である。

図3 子どもの平日の就寝時間別にみた朝食の有無の状況【第13回調査】



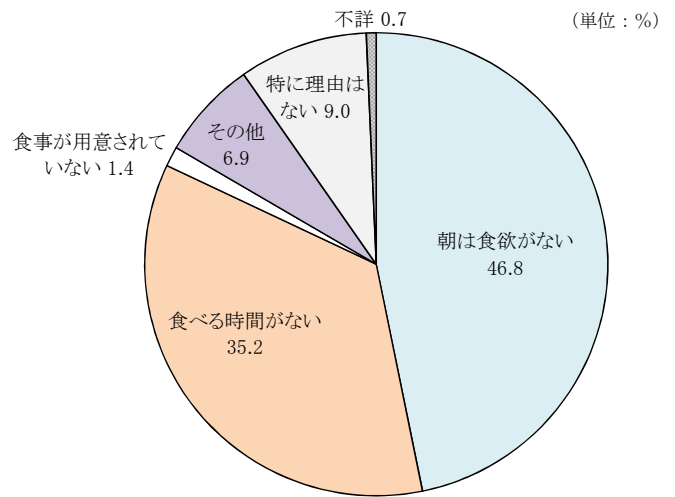
注: 第13回調査の回答を得た者(総数 30,331)を集計。

図4 朝食を食べる子どもの主食、主菜、副菜のバランス【第13回調査】



注: 第13回調査の回答を得た者のうち、朝食を「食べる」または「食べないことがある」に回答ありの者(総数 29,679)を集計。

図5 朝食を食べない子どもの食べない理由【第13回調査】



注: 第13回調査の回答を得た者のうち、朝食を「食べない」に回答ありの者(総数 421)を集計。

### 3 子どもが思う悩みや不安

- ・ 男児より女児の方が、「悩みや不安がある」と答えた割合は高くなっている
- ・ 悩みや不安の種類について、男女ともに「学校や塾の成績に関すること」の割合が最も高く、次いで「進路に関すること」となっている
- ・ 悩みや不安の相談相手は、男女ともに「母」の割合が最も高く、次いで、「友人」、「父」の順となっている

子どもが思う悩みや不安の有無を性別にみると、男児は「悩みや不安がある」が 29.0%、「悩みや不安は特になし」が 67.7%で、「悩みや不安がある」との答えは3割に満たない一方、女児は「悩みや不安がある」が 43.5%、「悩みや不安は特になし」が 53.9%と、「悩みや不安がある」との答えが4割を超えており、男児より女児の方が、「悩みや不安がある」と答えた割合は高くなっている（図6）。

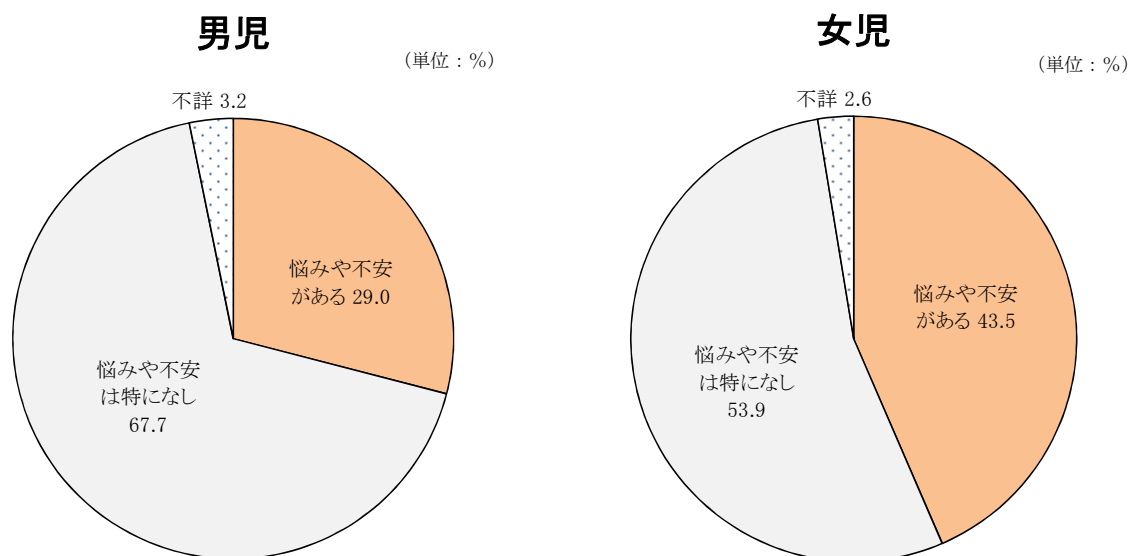
さらに、「悩みや不安がある」と答えた子どもについて、性別に悩みや不安の種類別の割合をみると、男児では、「学校や塾の成績に関すること」、「進路に関すること」、「親の期待や要求が高すぎること」、「友達との関係に関すること（友達ができない・友達の輪に入れないなど）」の順で高く、女児では、「学校や塾の成績に関すること」、「進路に関すること」、「友達との関係に関すること（友達ができない・友達の輪に入れないなど）」、「自分の容姿に関すること」の順で高くなっている。

また、男児では「親がなにかと干渉してくること」、「親の期待や要求が高すぎること」などの割合が女児より高く、女児では「自分の容姿に関すること」、「友達との関係に関すること（友達ができない・友達の輪に入れないなど）」などの割合が男児より高くなっている。（図7）

子どもの性別に、悩みや不安についての相談相手をみると、男女ともに「母」の割合が最も高く、次いで、「友人」、「父」の順となっている。

また、男児では、「父」、「誰にも相談しない」などの割合が女児より高く、女児では、「友人」、「母」などの割合が男児より高くなっている。（図8）

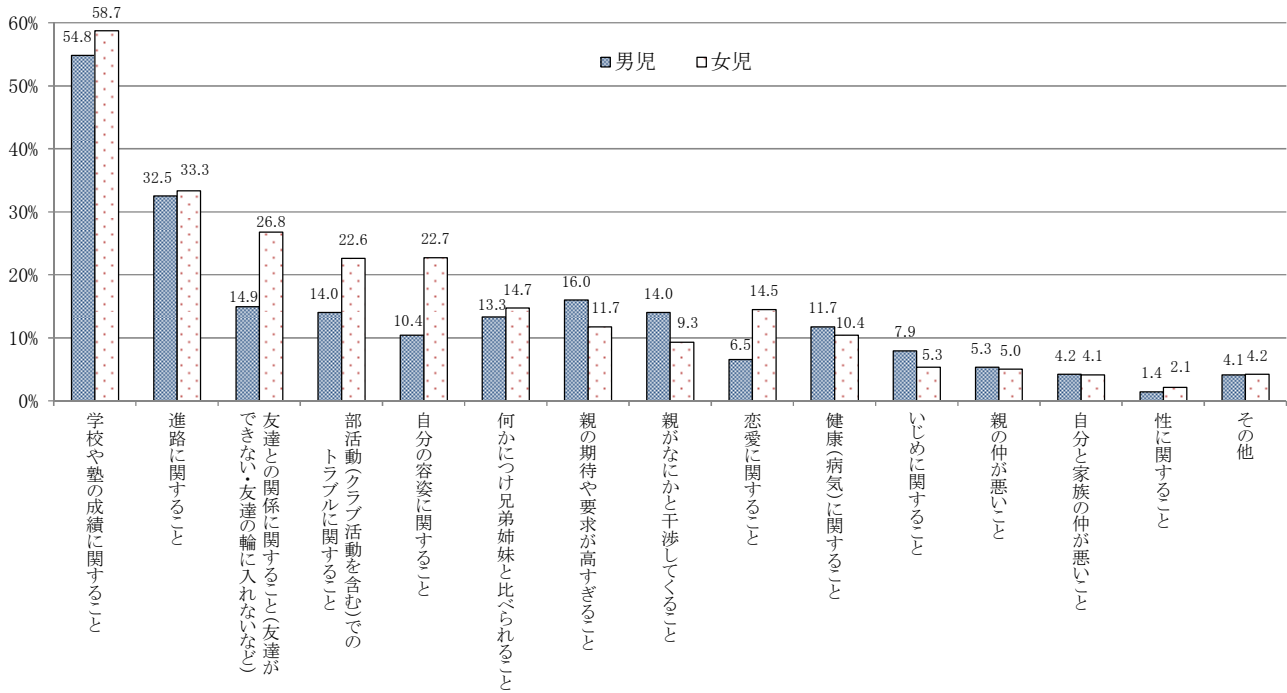
図6 子ども性別にみた悩みや不安の有無【第13回調査】



注：第13回調査の回答を得た者のうち、男児（総数 15,663）を集計。

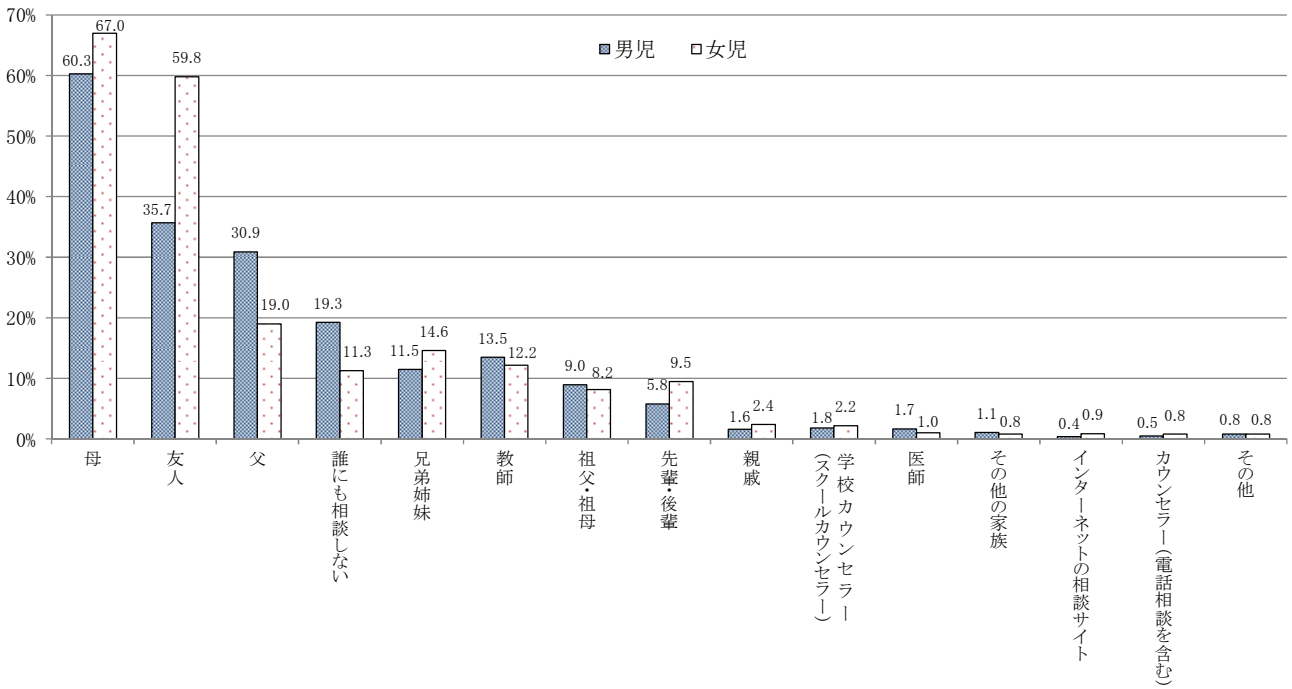
注：第13回調査の回答を得た者のうち、女児（総数 14,668）を集計。

図7 子どもの性別にみた悩みや不安の状況（複数回答）【第13回調査】



注：第13回調査の回答を得た者のうち、「悩みや不安がある」に回答ありの者をそれぞれ100として集計。

図8 子どもの性別にみた悩みや不安についての相談相手の状況（複数回答）【第13回調査】



注：第13回調査の回答を得た者のうち、「悩みや不安がある」に回答ありの者をそれぞれ100として集計。

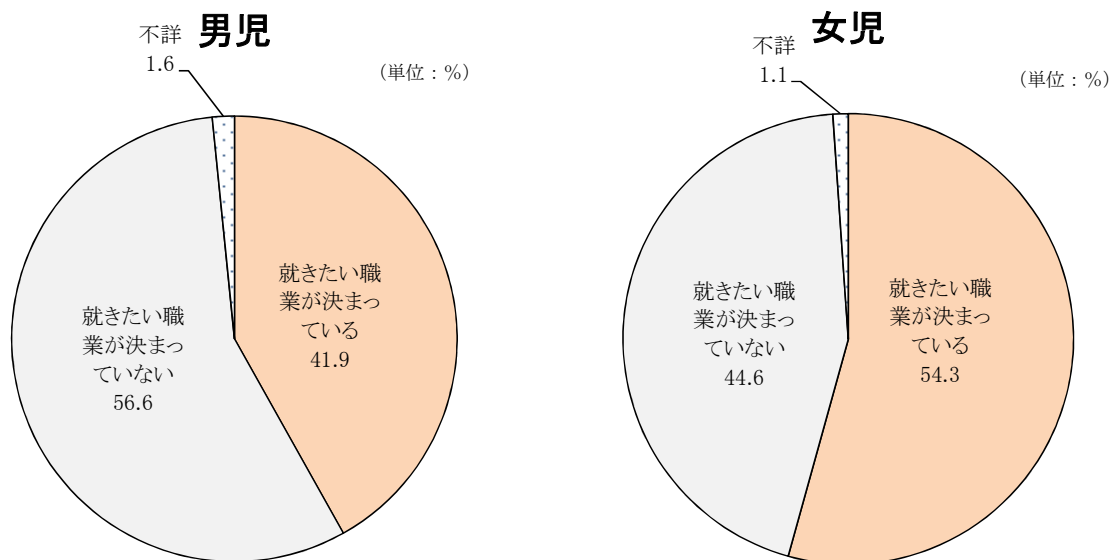
#### 4 子どもの将来の職業

- ・ 男児より女児の方が、将来「就きたい職業が決まっている」と答えた割合は高くなっている
- ・ 子どもが将来その職業に就きたい理由は、「自分の興味や好みにあっているから」の割合が最も高く、保護者が子どもに将来就いて欲しい職も、「子ども自身が望む職」の割合が最も高くなっている

子どもの性別に、将来就きたい職業が決まっているかどうかの割合をみると、男児は「就きたい職業が決まっている」が41.9%、「就きたい職業が決まっていない」が56.6%で、過半数が「就きたい職業が決まっていない」と答えている一方、女児は「就きたい職業が決まっている」が54.3%、「就きたい職業が決まっていない」が44.6%と、過半数が「就きたい職業が決まっている」と答えている（図9）。

さらに、将来「就きたい職業が決まっている」と答えた子どもについて、子どもがその職業に就きたい理由と、保護者が子どもに将来就いて欲しい職をそれぞれみると、「自分の興味や好みにあっているから」（子ども）・「子ども自身が望む職」（保護者）の割合が最も高く、次いで「自分の能力や適性が生かせるから」（子ども）・「本人の才能を生かせる職」（保護者）となっている。一方、子どもと保護者で違いがみられるのは、保護者の「安定した職」の割合が52.1%と高いのに対し、子どもの「失業のおそれがないから」の割合は7.0%と低くなっている。（図10）

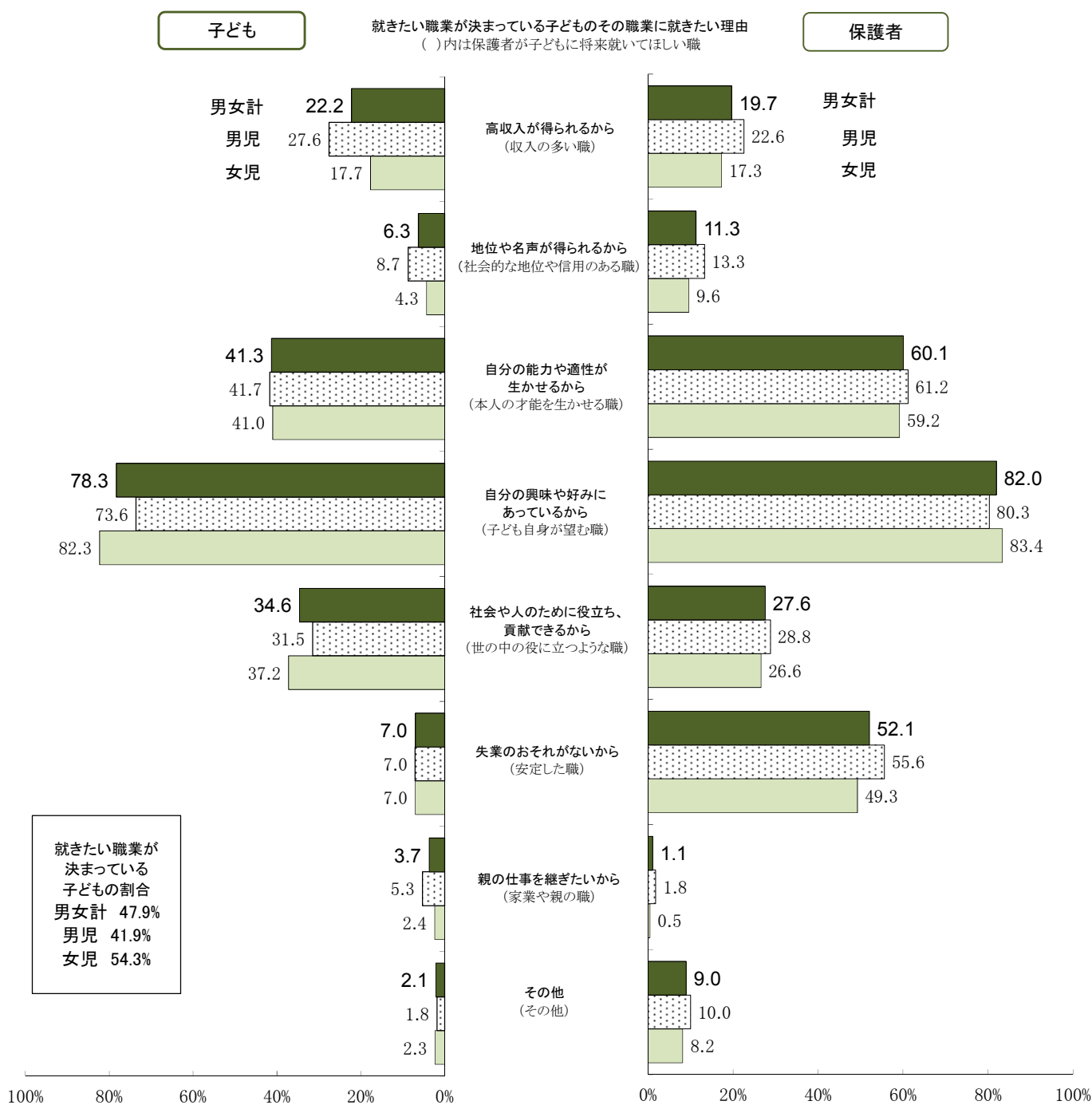
図9 子ども性別にみた将来就きたい職業の有無【第13回調査】



注：第13回調査の回答を得た者のうち、男児（総数 15,663）を集計。

注：第13回調査の回答を得た者のうち、女児（総数 14,668）を集計。

図 10 子どもが将来その職業に就きたい理由(複数回答)と保護者が子どもに将来就いてほしい職の状況(複数回答)【第 13 回調査】



注: 第13回調査の回答を得た者のうち、「就きたい職業が決まっている」に回答ありの者をそれぞれ100として集計。